

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 宮島喜文

編集責任者 深澤憲治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1～P3 認知症特集 (1) 9月は世界アルツハイマー月間

認知症 特集 (1)

こころとココロがつながるこの一歩

9月は 世界アルツハイマー月間



●アルツハイマー月間とは

1994年9月21日、スコットランドのエジンバラで第10回国際アルツハイマー病協会国際会議が開催されました。その会議の中で「国際アルツハイマー病協会」(ADI)は、世界保健機関(WHO)と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、この日を中心に9月を「世界アルツハイマー月間」と定め認知症の啓発活動を実施しています。この活動はアルツハイマー病等に関する認識を高め、世界の患者と家族に援助と希望をもたらす事を目的としています。わが国でもポスターやリーフレットの作成、各種イベントの実施(オレンジのライトアップ等)を行い、認知症への理解を呼びかけています。

認知症の家族と暮らす ～ さらに一年 ～

はせがわ もか (ペンネーム)

毎年、この特集号で認知症の女性の生活を掲載していただいている。彼女は今年も元気である。認知症と診断されてからの何年間はさほど様子も変わらず生活していたが、ここ数年は毎年様子が変わってきた。

(興味のある方はバックナンバー 会報JAMT Vol. 27 No. 17・会報JAMT Vol. 28 No. 17認知症特集をご覧ください。)

彼女の中で自宅はすでに自宅ではない。確かにデイサービスから帰ってきたときには、送ってきてくれた施設の方に「ありがとうございます。」と伝え、玄関の中に入り「ただいま帰りました。ふう～」と言いながら杖を置き靴を脱ぐ。一休みするうちに、なんとなく落ち着かなくなってくる。ここは自宅だと伝えても、「うちに帰りたいけど誰も連れて行ってくれないのでね」とのこと。私や主人(息子)のことも施設のスタッフだと思っている。食事の時間になって呼びに行き、部屋から出てくると「どうもありがとうございます。」と席に着く。「召し上がってくださいな」と何回も促すとようやく食事をはじめ。以前は好き嫌いを言わずなんでも口に運んでいたが、最近はおか

ずを残すようになった。どうやら実はあまり好きではないものもあったらしい。出されたものは食べなければいけないという意識が強かったうちは、文句を言わず食べていただけ、今はどう促しても嫌いなものは食べなくなった。

昨年骨折して入院した頃から、リハビリパンツを着用するようになり、時折失禁がある程度であったのが、最近は毎日どこかのタイミングで失敗をする。たまにそれが気になるらしく、気が付くとリハビリパンツの中身をすべて引き出した不織布1枚のぺらぺらしたパンツをはいていることがある。中身は案の定敷布団の下に隠されている。ポリマーをトイレに流されると一大事であるが、今のところそれはない。ただ、トイレにもポリマーが散乱していることがあるので私たちは戦々恐々としている。常時おむつを使用するようになり、市町村へ紙おむつ等購入券交付申請をすることができるようになった。この券で紙おむつ、尿取りパット、とろみ剤、おしりふきが購入できるようだ。ある日、リハビリパンツに沁みた尿が赤かった。結晶が析出したかと思ったがどうも血尿のように思えたので、泌尿器科の開業医にかかることにした。主人が土曜日の朝一番で連れて行った。混んでいるのだろうとは思ったのだが、お昼になっても帰ってこない。やっ

と帰ってきた主人の顔は疲労の色が濃く、聞けば採尿ができなければ診察にならないといわれたが、どうにも採尿ができず、今日はもうだめかと思った昼前にやっと採尿ができて診察になったのだそうだ。結局細胞診もあり、後日再診となった。膀胱鏡をするから尿をためてくるように言われたが、到底無理な話であった。それでもいろいろ検査をした結果、血尿はあるが悪性のもではなく、治療も不要といわれ、止血剤の服用だけが始まった。問題ないと伝えてはあるが、デイサービスの日誌には毎日血尿の様子がつづられてくる。

最近週末ショートステイも利用するようになった。今までは一人でうちから出ることはなかったが、ある日私たちが2時間ほど留守をして戻ったら彼女の姿がなく、杖も靴もなかった。慌てて近所を捜し歩いたが見つからず、いよいよ警察に届けようということになった時、ただならぬ様子の家族に声をかけてくれた人がいた。「坂の上の土手におばあさんが座っていたけれど、家族の方かね？」坂の上には、歩き疲れた様子の彼女がぼつんと座っていた。私も主人も週末でかける用事もあるし、田んぼや畑もしなければならない。ショートステイをお願いすることで、一人ぼっちにすることがなくなり、一人で出かけてしまう心配もなくなった。

来月には90歳の誕生日がくる。そうだ！孫やひ孫もいっしょにお祝いできるように計画しよう。誰がいるのかはわからなくても、お祝いをされるとうれしそうだから。さて、娘に電話だ。



もっと知ろう
もっと語ろう
認知症

世界アルツハイマー月間
2023ポスター

9月21日は
世界アルツハイマーデー

(公益社団法人 認知症の人と家族の会)

認知症診療におけるこれからの 臨床検査技師の関わり

「これから期待される認知症関連バイオマーカー」 河野 正臣 (医療法人社団誠馨会 新東京病院)

この度、第72回日本検査医学検査学会学術集会、シンポジウム「認知症領域におけるこれからの臨床検査技師の関わり」でお話させていただきました、テーマ「これから期待される認知症関連バイオマーカー」の一部を紹介いたします

○PMDAに申請中の「レカネバブ」、日本でも年数万人規模で投与がはじまる？

アルツハイマー型認知症発症の原因とされる脳内アミロイドβ (Aβ) に抗体が結合することで沈着(蓄積)を抑制する「レカネバブ」は、エーザイ株式会社とバイオジェン・インクの共同開発したアルツハイマー病の治療薬です。PMDA承認後、日本では年数万人規模で投与がはじまると予測されております。

○これから期待される認知症検査

例えば、シスメックス株式会社は免疫学測定装置HISCLシリーズで血液中のAβ 1-42およびAβ 1-40測定試薬を2023年6月に販売を開始しました。測定原理は化学発光酵素免疫測定法(CLEIA法)、検体量は10~30uL、測定時間は17分で従来の免疫項目とほぼ変わりません。つまり、診療報酬など費用の問題はありますが日常診療で測定可能な環境が整いつつあります。認知症関連血液バイオマーカー検査でMCIや早期ADの評価を行うことで、早期薬物療法の介入と臨床研究の推進、早期認知症ケアの介入によるQOLの改善が期待されます。

○現場の臨床検査技師に求められること

採取時間の明確化、適正な採取容器、保存条件など検査前精度の担保や測定精度、基準値・cut off値の把握を要します。血液バイオマーカーの課題を考慮して非特異反応による疑陽性や偽陰性など検査のピットフォールの可能性についても検証して情報を共有する必要があります。

【血液バイオマーカーの課題】

- 血中濃度がごく微量
- 測定系に影響を与える夾雑物の存在
- 血中蛋白分解・排出速度には著しい個人差
- 試料中の目的物質の安定性

○検査結果は慎重に取り扱うことが重要

研究開発が飛躍的に進むバイオマーカー検査ですが同時に検査結果を患者さんやご家族に開示する際は、下記点に注意して慎重に取り扱うことが重要と考えます。

【バイオマーカー検査結果の開示の適正化】

- 認知症の関連学会の専門医等が望ましい
- 検査結果の有用性と限界を説明する
- 心理的・社会的影響について配慮する
- 適切な助言、必要に応じて継続的な診療
- プライバシーと機密性の保護

地域から求められる認知症予防活動 新屋敷 紀美代（合志第一病院）

高齢化社会を迎えた日本。皆さんは、自分の住む地域の高齢化率を気にしたことはありますか？私の住む熊本県では、令和3年（2021年）10月1日現在で高齢化率が31.9%、高齢者数が約55万1千人と「県民の3.1人に1人以上が65歳以上の高齢者」です。また、その半数以上（約28万3千人）が75歳以上という状況になっています。要介護認定者数は、令和3年（2021年）4月末現在で110,333人となり、平成12年4月から60,430人増加（約2.2倍）しています。（熊本県ホームページより）この数字を見て、将来を心配しない人はいないのではないのでしょうか？

私は、日頃から社会福祉協議会のボランティアをしております。その関係で、防災士の資格を取得し、学校や地域の老人会にDIG（災害図上訓練）やHUG（避難所運営訓練）の指導に行き、熊本地震や人吉球磨地方の水害に際しては、DVT検診や瓦礫の撤去や傾聴ボランティアの活動をしました。

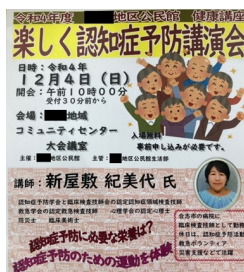
もともと、院外での活動に抵抗がなかったのですが、認定認知症領域検査技師の資格を取得後、いざ認知症予防活動と知り地域に出てみると、臨床検査技師に対する認知度も低く、「検査技師がなぜ認知症？」「認知症の検査をするの？」と質問攻めにありました。それでも熊本市の認知症担当者から近くの認知症カフェをご紹介いただき活動を開始しました。

もちろん、仕事をしながらの活動のため、月に1～2回傾聴に行く程度です。しかし、私の思い描いていた軽度認知症（MCI）の早期発見や予防活動とは程遠いものでした。もっと、地域の人に直接お話しする機会を持ちたいと思っていたところ、熊本県の生涯教育講師育成講座のチラシを目にし、よく考えもしないで申し込んでいました。全国で講演活動されている講師の先生の2時間10回の講座を受け、自分のプログラムを作成しました。最後にプログラムの内容、話すスピード、声のトーン、表情、気配りなど細かく評価され、試験に合格することで熊本県のホームページに生涯教育講師として紹介されています。

コロナ禍で、なかなか講座が開けませんでした。昨年未から少しずつ依頼が入ってきました。

熊本県の県北にある地域で、高齢化率が38.7%（令和3年）独居世帯も多い地域で最初の講演を開催しました。案内チラシに臨床検査技師と入れていただいたことがうれしかったです。

講座では、認知症についての簡単な説明と予防に必



左：初回講演会のチラシ 右：講演会場の様子

要な栄養や運動についてお話しをします。栄養は、管理栄養士、運動は理学療法士がアドバイスしてくれました。その後、参加者とコミュニケーションをとりながら、日頃の生活で気を付けていただきたいことを個別指導していきます。



クリスマスツリー製作

この講座は、クリスマス前ということもあって、友人に開催地域の山で松ぼっくりを拾ってきてもらい、綿を詰めてクリスマスツリーに見立て講座の後に製作を行いました。参加者30名。

皆さんが製作に夢中になっている間、講座の途中で気になった人を地区の担当者に繋いでいっています。季節に合わせ、身近で費用がかからない製作は、皆さんのその後の趣味に繋がっています。

今後は、定期的な講座を開催し、予防活動の効果を目に見える形にしていきたいと考えています。また、認定認知症領域検査技師資格を取得し、認知症予防に貢献したいという仲間と一緒に活動できたらと思っています。そのためにも、Bandアプリを使った「認知症に興味のある臨床検査技師の集い」は役立っています。

全国の認知症関連の研修会情報や新しい知見について紹介があります。認知症に関心がある臨床検査技師であれば誰でも登録できますので、興味のある方は以下のURLからアクセスして参加希望をお伝えください。

<https://forms.gle/hfgMd7TurbUZaGjh8>

上記のURLは9月限定です。

次号も認知症特集をお届けします。
お楽しみに！



（編集後記）今年の夏は猛暑となり連日真夏日を記録していますが、これに加えて台風シーズンも到来しました。執筆時点で台風6号・7号が相次いで日本列島を直撃し、お盆の帰省をされる皆様の移動にも大きな影響を及ぼしたのではないのでしょうか？毎年のこととはいえ、災害に直結する台風については用心が必要です。我が家でもこの台風を機に備蓄食料などを見直しました。備えあれば憂い無し、常日頃意識するのは難しいですが、気が付いた時だけでも行動するように心掛けたいものです。（直田）